

科目名	生物活用	単位数	2 単位	学科・学年	生活総合 科 3 年		
使用教科書	生物活用	農文教	副教材等	プリント			
学習目標	園芸作物と社会動物の活用に必要な知識と技術を学び、その特性および特質を学習するとともに、生活の質の向上や健康の改善を図る能力と態度を学んでいきます。また、動物（犬）の活用を中心に学ぶ。また、畜産業とは異なる業種（訓練士・トレーナー）の業務内容やセラピー動物としての活用法について具体的に学んでいきます。						
学習評価	○ 次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。						
	①関心・意欲・態度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組む姿勢であるか。</li> <li>・授業に対し研究心を持っているか。</li> </ul>				
②思考・表現・判断		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート、資料プリント等が整理されているか。</li> <li>・発言の有無。</li> </ul>					
③技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習（実習）態度が適切か。</li> <li>・実験、実習内容の理解度があるか。</li> </ul>					
④知識・理解		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、レポート、資料・ノート整理。</li> </ul>					
		評価方法\観点	①	②	③	④	
		学習態度	◎	◎	◎	◎	
		ノート提出	◎	◎			学期に2回実施
		定期テスト		◎	◎	◎	学期に1～2回実施
		実習	◎		◎	◎	長期休業中に実施
<p>※表中の◎は観点の中でより重視するところです。</p> <p>定期考査、提出物（ノート、実験レポート）、出席状況、学習状況から総合的に評価します。</p>							
履修上の注意	○見学や体験実習(ドッグトレーナー講習)の際は、必ずレポート提出を行います。						

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 ( 評 価 方 法 )
1	4 5 6 7	園芸の活用と効果 1. 暮らしと園芸 1) 暮らしと園芸の関わり 2) 園芸とその効果 3) 広がる園芸療法 2. 園芸の効果・園芸がもたらす心身の糧 1) 園芸の持つ多様な効果 2) 人間の欲求・成長と園芸のはたらき 3. 園芸の効果を生かす活用場面 1) 多面的園芸活用・園芸福祉 2) 園芸の療法的活用	25	・園芸（草花・野菜・花木栽培）全般が日々の暮らしにどのように関わっているかについて学び、衣食住以外の分野での活用について学ぶ。 ・園芸療法について、その活用の場面について具体的に学ぶ。	・授業態度 ・発言の有無 ・出席状況 ・ノート提出 ・中間考査（5月下旬） ・期末考査（7月上旬）
2	9 10 11 12	園芸療法 1. 園芸療法とその特徴 1) 園芸療法とは 2) 園芸療法の特徴 3) 園芸療法の歴史 4) 園芸療法の現状 2. 園芸療法の実施上の基本 1) 環境調査・システムづくり 2) プログラムの設計・実施上の注意点 3) 評価	27	・園芸療法は病気や障害、体力のおとろえなど自ら園芸をすることができない人に対し健康の改善や生活の質の向上を目的として提供される園芸活動であることを学ぶ。 ・実施上の基本を学び、プログラムなどの設計方法を学習する。	・授業態度 ・発言の有無 ・出席状況 ・ノート提出 ・中間考査（10月上旬） ・期末考査（12月上旬）
3	1 2 3	1. イヌの活用と効果 1) イヌの誕生と活用のあゆみ 2) わが国におけるイヌの活用 3) イヌの新しい活用と効果 2. イヌの起源と種類・品種 1) 犬種 2) 犬種と活用方法 3) 犬種による特性 3. 犬の性質と行動 1) イヌの行動性 2) 犬種による性質の違い 4. イヌの飼育と管理 1) イヌの飼育場所 2) 飼料と飼料給与 3) 日常の管理としつけ 4) 衛生管理と病気対策	18	・イヌの起源について学び、イヌと人間との関わりの歴史について学ぶ。 ・犬種とその性質について学び、犬種による活用方法の違いについて学ぶ。 ・イヌの性質を学び、飼養管理や衛生管理方法について学ぶ。 ・イヌの行動について学び、日常のしつけ方法について学ぶ。	・授業態度 ・発言の有無 ・出席状況 ・ノート提出 ・訓練士による実演指導 ・学年末考査（3月上旬）
			70		